

月刊

2015

11
月号

みんぱく

特集

ミステリーに挑む



モルグ街のオランウータン 井上健

日本ミステリーの夜明け 堀啓子

指紋は何の証拠? 橋本一徑

人類学者は名探偵か 高橋絵里香

考古学ミステリーは情報工学で解けるか 寺村裕史

食べる・食べられる

僕は山形の月山中腹、標高八〇〇メートルほどの場所に暮らしている。月山周辺では毎年秋になるとたくさんのカメムシが発生し、刺激すると臭いオナラを出すために害虫として扱われている。僕はカメムシを見つけると瓶などに入れておいて、何匹か集まると調理して食べている……と言うと多くの人には怪訝な顔をされてしまう。近頃は食文化も見直されつつあるが、日本社会で暮らす者にとっては虫の中でもカメムシに対する忌避感（ひげん）は強いものがあるのだろう。しかし世界に目を向けてみればカメムシは多くの地域で食べられ、貴重なタンパク源となっている。

カメムシを食べるためには調理の手順が大切となる。虫を食べる際には安全のため火を通すのだが、カメムシの場合はまず生きたまま熱湯に入れてオナラを出してから揚げたり茹（ゆ）でたりして調理する。油で揚げ味付けしたカメムシは少しパクチャーのような香りがすることもあるがスナック菓子のようで美味しい。

また僕はカメムシ以外にもカエルやヘビ、季節ごとの山菜やキノコも食べる。要するに自然の中で食べられそうなものは何でも食べたいと思っている。

僕は山伏失格かもしれないけれど、神仏を熱

坂本大三郎

プロフィール
1975年生まれ。山伏／美術作家／文筆家。千葉県出身。山伏との関連が考えられる芸術や芸能の発生や民間信仰、生活技術に関心をもち祭りや芸能、宗教思想の調査研究をおこなう。現在は山形・東北を拠点に自然と人とのかわりをテーマに執筆。さまざまな美術展に参加し作品を制作している。著作に『山伏と僕』（リトルモア）『山伏ノート』（技術評論社）など。

心にお祈りすれば良いことがあるとか、おこないが悪いとバチが当たるといったことは全然信じていない。しかし自然の中で生存させてもらっていると感じて、海や山や街など自分を取り囲んでいる世界に対して深い敬意を持っている。

僕が暮らしている山形では人が亡くなると魂が山に宿ると考える文化がまだ残っていて、実際、人は死んでから時間をかけて身体や、そこに蓄積されていたエネルギーが自然の中に拡散吸収されていく。そう考えれば自然というのは自分たちの祖先が姿を変えたものであり、いずれは自分も自然に食べられて、そこに加わるのだとも思えてくる。

すると自然の一部であるカメムシが愛おしく思えてこないだろうか。害虫だからといって簡単に殺し捨てる気持ちにはとてもなれない。虫や道路で轢（ひ）かれた動物も痛んでいなければ食べたい。そう僕は思っている。

近頃は「カメムシを食べている」という噂（うわさ）だけが広まってしまい、僕を山の怪人のように思っている人もいるようなのだけれど、それはそれで子供の頃に抱いた「妖怪になりたい」という夢に一步步近づけたようで悪い気はしていない。……でもホントは少し寂しい。

月刊 みんなぱく

11月号日次

- | | |
|---|---|
| <p>1 エッセイ 千字文
食べる・食べられる
坂本 大三郎</p> <p>2 モルグ街のオランウータン
井上 健</p> <p>4 日本ミステリーの夜明け
堀 啓子</p> <p>5 指紋は何の証拠?——犯罪人類学から科学捜査へ
橋本 一径</p> <p>7 人類学者は名探偵か
高橋 絵里香</p> <p>8 考古学ミステリーは情報工学で解けるか
寺村 裕史</p> <p>10 ○○してみた世界のフィールド
ネパール地震の被災地を訪ねて
南 真木人</p> | <p>12 みんなぱく Information</p> <p>14 味の根っこ
チェブオハウ
齋藤 玲子</p> <p>16 文化遺産おもてうら
和食がユネスコの無形文化遺産に登録されて見えてきたこと
熊倉 功夫</p> <p>18 音の居場所
米国先住民ミュージシャン エド・カボーティ
伊藤 敦規</p> <p>20 人間学のキーワード
共生
飯嶋 秀治</p> <p>21 次号予告・編集後記</p> |
|---|---|

ミステリーに挑む

犯罪、サスペンス、超常現象。

ミステリーを解き明かす物語は、どのように生まれたのか。

現実の名探偵ならぬ研究者は、どのような手法をもちい、「謎」を解き明かすのか。

秋の夜長はミステリーと洒落込みたい。

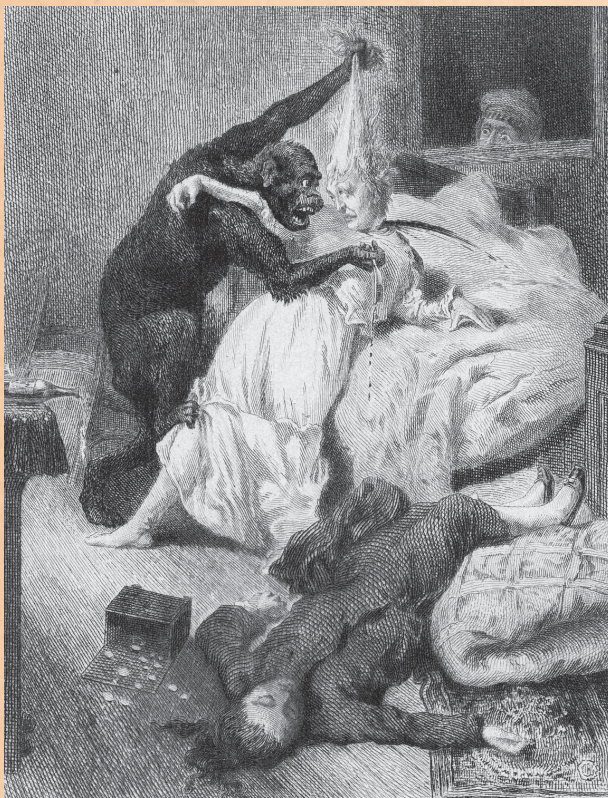
モルグ街のオランウータン

井上健 日本大学教授



猩々の怪異譚

近代探偵小説の要件は、推理方法、探偵像から、密室殺人、意外な犯人像に到るまですべて、新大陸アメリカの作家エドガー・アラン・ポーの「モルグ街の殺人」(一八四二年)一篇をその淵源とする。「モルグ街」の本邦初訳、饗庭篁村訳「ルーモルグの殺人」(一八八七年)は、これを猩々による怪奇な人殺しの顛末を語った講談調の探偵譚に仕立て上げた。長田秋濤訳「猩々怪」(一八九九年)は邦題でしつかり犯人を明かすのみならず、「此怪談は予が嘗て巴里に居つた時分、人から聞いた話」だとして著作権まで侵害しているのだからたちが悪い。雑誌『新青年』一九二二年新年号の「モルグ街」抄訳は(江戸川乱歩が「二銭銅貨」で同誌に華々しいデビューを飾る一年少し前のことだ)、挿絵によって犯人が猩々であると早々と教えてくれるばかりか、剃刀を手に夜のバリを徘徊する様から殺害の場面までしつかり描いて見せて



ダニエル・ヴィエルジュ。ボードレール訳『異常な物語集』(1884)より

くれている。こうした「モルグ街」の怪異譚化とそれによるネタ割れはじつは我が国に固有の現象なのではない。

フランスのオランウータン

「モルグ街」は一八四六年、仏訳されて「裁判記録にも例を見ない殺人」という表題でフランスの日報に、さらに「血みどろの謎」なるおどろおどろしい表題で雑誌掲載される。「モルグ街」がフ

ランスで、まずは大猿の猟奇的怪異談として読まれたことは、のちにボードレール訳『短編集』に添えられることになる、ダニエル・ヴィエルジュの有名な挿絵を見ても納得される。オランウータンが巨大で凶暴であることにかけては、英語オリジナル版のハリ・クラークの挿絵もひげはとらず、思わずエンパイア・ステート・ビルに追い詰めて戦闘機で攻撃したくなるほどである。ところが



「歯を噛み鳴らし、目から炎を発して、そいつは娘めがけて躍りかかった」ハリ・クラーク。Tales of Mystery and Imagination (1919)より

「モルグ街」では、オランウータンは新聞記事と書物と伝聞情報の内に生息するのみで、一度もその実像を読者の前にさらすことがないのである。対する探偵デュパンも、徹底的に記号を読み解く人、言語表現にかかわる人として造形されている。

アメリカン・ゴシックと黒人恐怖

ポーの参照した、フランスの動物学者キュビエの書は、オランウータンを温和な動物であるとしていた。なぜにそれがかくも扇情的脚色を誘発する、生々しい凶行の主と化したのか。ひとつには探偵小説というジャンルが、怪奇性、ゴシック性をその発端として構造的に必要とするという事情

があるからだろう。さらにポーの同時代に目を向ければ、黒人と猿とのアナロジーを殊更に言い立てる動物学的言説や多元論的思潮と、アメリカン・ゴシック固有の悪夢の源泉たる黒人奴隷の存在が浮上してくる。「モルグ街」執筆前後、フィラデルフィアに居住していたポーは、大規模な黒人暴動に遭遇している。理髪業に携わる黒人も多かったという史的事実は、モルグ街のオランウータンが人間の髭剃りの真似をして剃刀を振り回す理由を説明してくるだろう。だがこうした議論には、一九世紀中葉の南部家庭に飼われた黒猫にまつわる怪異・復讐譚「黒猫」(一八四二年)を、通常は従順な黒人奴隷への潜在的恐怖を反映した物語と



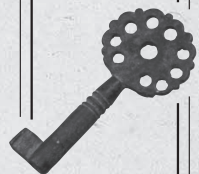
「名作物語1 モルグ街の殺人」『新青年』正月探偵小説名作集』号(1922年1月)



解するのと同様の陥穽が潜んでいる。天才の創造のメカニズムはしばしば時代を軽やかに乗り越えて、想像力の深淵たる「黒」や「闇」の領域にしかと入り込んでいくものだからである。

日本ミステリーの夜明け

堀啓子 東海大学教授



中国渡来の名裁き

二人の女が一人の子どもを争った話がある。訴え出た二人は、子どもの手を両側から思い切り引っぱり、引き勝った方を母親とみなすと言い渡される。だが両手を引つ張られ泣き出した子を見て一人が思わず手を放した。この女こそが本能的に子



泉亭亭是正「石地蔵吟味の話」 『リプリント日本近代文学61 大岡美政談』国文学研究資料館 平成18年(歌川国政、画)

を思いやったとされ、実母と認められた、という話である。江戸時代に活躍した名奉行・大岡越前守忠相の裁きとして広く知られている。だがじつはこれは、大岡の実話ではない。大岡の名裁定の数々は、実録体小説『大岡政談』に詳しい。だが実際にはこの「子争い」を含め、



明治時代に口演され、その後に出版された外国ミステリーの口絵 快楽亭ブラック『薔薇娘』三友会 明治24年(国立国会図書館近代デジタルライブラリーより)

いくつかは別人の話である。素材の典拠は、中国・宋の時代の裁判小説『棠陰比事』にある。「棠陰」とは優れた政治や裁判を意味し、類似テーマの裁判例を一对にして収録したことから「比事」という。そのためこの話も、『棠陰比事』では二人の「父親」が子を争う話と対になっていた。より魅力的と思われた「母親」の話だけが、それらしく直され、『大岡政談』に組み込まれたのであろう。

裁判ものからミステリーへ

その後も、『棠陰比事』に倣って次々に上梓された裁判小説は、「〇〇比事」と題され、江戸時代を通じて大変な人気を博した。裁判小説の主たる魅力は、容疑者が裁かれる「へ白洲」にある。そこで時間を遡って事件を審理する過程は、ミステリーの謎解きを髣髴させる。ここに、通常の編年体の小説とは異なる、サスペンスと面白さがある。ところで、こうした裁判小説の人氣は、日本の

読者のなかにひとつの素地を形成させた。それは、ミステリーへの馴染みややすさである。元来、ミステリーは日本には存在せず、明治維新の開国で初めて西洋からもたらされた。そのため当初は翻訳



彩霞園柳香「双子奇縁二葉草」 薫志堂 明治22年 (黒岩涙香が原書の要旨を話し、友人の柳香が書き直した作品)

ものばかりであったが、日本の読者が抵抗なく受け入れたのはそうした土壤があったからであろう。

東洋の土壌と西洋の上物と

ただ、その経緯は簡単ではなかった。日本にミステリーを広めた黒岩涙香は、英語に堪能で多くのミステリーを原書で読破していた。だがジャーナリストの彼は、小説を書くこととは思わなかった。そのため当初、ある原書のあらましを友人の戯作者に伝え、書き直してもらって発表した。不運だったのはこの友人が、初めに謎ありきというミステリーの形式をまるで知らなかったことである。彼

は涙香から聞いたストーリーを編年体書き直してしまい、結果的に謎解きという要素のない失敗作となった。それほどミステリーはまだ珍しかったのである。以降、涙香は自ら翻訳の筆をとって次々に名訳を発表、『探偵小説の父』として日本のミステリーの普及に寄与したのである。

そして明治二〇年代に日本はミステリーブームを迎えた。中国由来の裁判小説を歓迎した日本人読者は、それゆえにこそ西洋種のミステリーにすんなりとなじめたのであろう。日本のミステリーは、洋の東西からもたらされた要素の結集によって発展したものと見えよう。

指紋は何の証拠？

犯罪人類学から科学捜査へ

犯罪と身体

チエーザレ・ロンブローゾの「生来性犯罪者説」がよく知られているように、一九世紀のヨーロッパで発達した犯罪人類学は、犯罪の原因を身体的・生物学的な特質に求めようとした学問である。ロンブローゾと並ぶ犯罪人類学の権威として君臨したフランスのアレクサンドル・ラカサーニユは、「動物犯罪学」を構想し、ずる賢い犬や性欲の強すぎる馬のなかに、人間と共通する犯罪的な性向を見ることができるとした。悪名高い「優生学」はその延長線上にあるといつてよいだろう。その名付け親で



あるフランスス・ゴルトンこそ、指紋法の生みの親の一人である。

ゴルトンが指紋に興味を抱いたのは、あくまで優生学的な関心からだった。だから彼はそこに人種や性別による違いを見出そうとしたり、犯罪者の指紋だけを集めて、共通する特徴がないかを確かめようとしたりした。結果はゴルトンにとって満足のものではなかった。指紋は種差や性差ではなく、ただ個体差しか示してはくれなかったのである。しかしたからこそ指紋は、やがて科学的な犯罪捜査の切り札として、確固たる地位を確

指紋に現れた個性

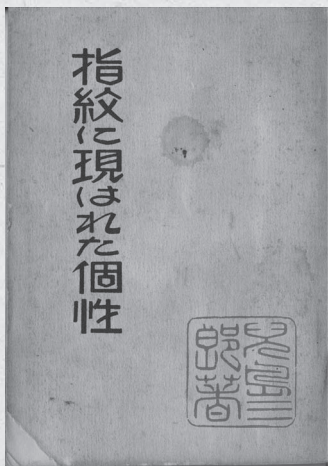


図1: 指紋占いの第一人者児島三郎による大正期の指紋占い本(筆者蔵) 児島三郎『指紋に現れた個性』大正15年

立することになる。犯罪人類学にとってはほとんど無意味だった指紋こそが出发点だった犯罪科学は、いわば犯罪人類学の鬼子である。

指紋のトリック

だが二〇世紀初頭には、指紋に個体差以上のものを読みとろうとする動きもまたくすぶっていた。とりわけ日本は指紋の人類学的な研究を二〇世紀



ホームケア利用者宅。田園地帯に建つマナーハウスで、築200年以上は経過しているという



マナーハウスの書斎。壁に貼られた所有地を示す地図に一族の歴史がうかがえる

「館」を訪れる
ゴシック小説というジャンルは、ホレス・ウォルポールの『オトランド城奇譚』を嚆矢として、一八世紀に誕生した。中世風の建物を舞台とし、怪奇と懐古に彩られた物語が特徴である。この流れを受け継いで、現在もミステリ小説には謎に満ちた古めかしい館が盛んに登場する。
興味深いのは、ゴシックな館を訪れる主人公の多くが女性であることだ。余所者を拒絶するプライベートな空間であっても、女性ならば家庭教師、メイド、当主の新妻といった役柄を背負って入り込み、家庭に隠された秘密を目撃することができるからだろう。
実際、ケアワークの現場では個人宅を訪れる機会が多い。森の奥の木造家屋や、平原に建つマナーハウスを訪れるたびに、物語の予感にわくわくしてしまうのは、やはりゴシック・ミステリの影響だろう。

未知の世界に足を踏み入れる
「異文化」を読み解く文化人類学者を、些細な手がかりを元に謎を解く名探偵になぞらえる。アメリカの人類学の教科書にシャロック・ホームズの

人類学者は名探偵か

高橋 絵里香 千葉大学准教授



推理が紹介されているくらい、一般的なアナロジイである。だがわたしは、とおりすがりの人びとの素性を一瞬で読み解くどころか、ついさつき電車で隣り合った人の服装を訊かれても覚えていない

以降も続けた例外的な国であり、その第一人者の古畑種基らが遺伝調査のために収集した膨大な指紋のサンプルは、今も国立科学博物館の人類研究部に眠っているはずである。日本では「指紋占い」が大正期より地味に存在し続けているのも、それと関係があるのかもしれない(図1)。また二〇世紀初頭のロンドンでは「指紋帳」なるものが流行し、人びとはサイン帳に互いのサインを寄せ合うように、家族や友人の指紋を集めて楽しんだという(図2)。



図2：指紋帳(筆者蔵) イギリス、1904年ごろ刊

オースチン・フリーマンの探偵小説『赤い指紋』(一九〇七)では、この「指紋帳」が犯罪のトリックに使われている。犯罪現場から検出された容疑者の指紋は、じつは指紋帳から偽造されたものだったのである。そのことを見事に暴きだした主人公の科学探偵ソーンダイク博士は、今日でもテレビドラマなどでお馴染みの科学捜査官の、いわば元祖である。このソーンダイク博士の例が典型的なように、探偵小説に登場する指紋は、警察がそれを証拠に犯人と決めつけてしまった人物の冤罪が、探偵によって晴らされるというパターンが多い。かの名探偵シャロック・ホームズも、そうやって警察の鼻をあかしたことがある(「ノーウッドの建築業者」)。犯罪捜査を単なる記録の照合に還元してしまう指紋は、僅かな手がかりを元に推理の翼を広げる探偵の知とは、根本的に相性が悪いのであろう。

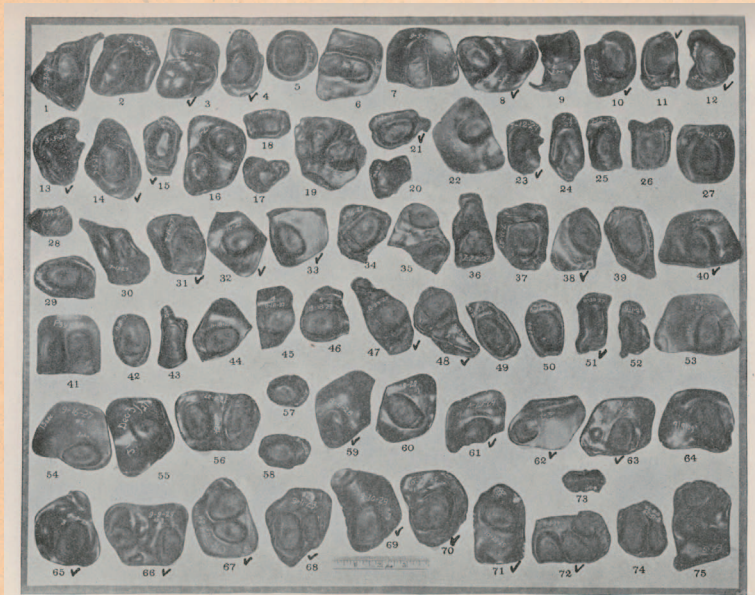


FIGURE 43. Group of seventy-five waxes, each bearing one or more impressions, which were photographed by the writer early in 1930 for the purpose of showing the variety of such waxes rather than their detail.

図3：霊媒師マージャーリーによって呼び出された心靈ウォルターが交霊会に残した指紋の数々。Brackett K. Thorogood, "The Margery Mediumship: The "Walter" Hands: A Study of Their Dermatoglyphics," Proceedings of the American Society for Psychical Research, vol. 22, 1933, fig. 43. より

の人物のそれと一致してしまったために、かえってマージャーリーを窮地に陥れてしまう。だが仮にそのような事実がなかったとしても、指紋は幽霊とも、やはり相性が悪かったのではないだろうか。幽霊と思わしき存在に出くわしたとして、その人が指紋を捺してみせたとしたら、果たしてそれは、その人が何であることの証拠になるのであろう。お化けには足がないというが、できれば指紋もあってほしくはない。もつともその確認を迫られるような場面には、なるべく遭遇したくないものであるが。

お化けにはないもの？

ところでホームズの生みの親コナン・ドイルが、心靈主義に熱を上げていたことは有名だが、その心靈主義の交霊会においても、指紋が用いられたことがある。アメリカの霊媒師マージャーリーが、一九二〇年代のポストンで、自らの呼び出した霊に、証拠として指紋を捺させたのである(図3)。交霊会の列席者におみやげとして振る舞われていたというこの指紋の蠟型は、鑑定の結果、存命

自信がある。

では、普段はぼんやりしている人類学者であっても、ひとたびフィールドに足を踏み入れれば、その土地に潜む謎を暴き出せるのだろうか。『八つ墓村』や『犬神家の一族』のように、人類学者も閉鎖的な村へ入り込んでいくのだろうか？だが、現在はどんな辺境の村落であっても世界と繋がっているし、人類学者の研究対象も多様化している。フィンランドの社会・保健医療ケアという領域で参与観察をおこなっているわたしが、自分自身を重ね合わせたくなるのは、ゴシック・ミステリの主人公が見知らぬ邸宅へと、恐る恐る足を踏み入れていく姿だ。

セレンディピティを求めて

ただし、小説と違って家族の隠された過去を暴くことは人類学の目的ではないし、そもそも個人情報を書き散らすことは許されない。では、現代の人類学はどんな謎を解くというのだろうか。

わたしにとって、それはセレンディピティである。セレンディピティとは、探求の途中に偶然出会う発見を意味する造語だ。もともとはペルシア語でスリランカを指す「サランディープ」からきていて、前述のウォルポールが『セレンディップの三人の王子』というペルシア童話を引き合いに考案した。ゴシック小説の創始者が思いついただけあって、見知らぬ世界へと足を踏み入れる経験の特性をよくあらわしたことはたと思う。

例えば、ケアという行為は日常的なルーティンであるけれども、常に変化していく体調や生活環境と向き合う複雑な判断を要求される。もし、ケアの受け手が転んでしまったら？ 白夜を日中と間違えて外出してしまったら？ そうした偶然の出来事を目撃することで、当たり前前の行為の意味を問い直すきっかけが生まれる。

研究対象の性質によって発見の種類は異なるだろうが、長期の参与観察を前提とする人類学がセレンディピティを期待する学問であることは確かだろう。その意味で、人類学者が名探偵になることは難しいけれども、ゴシック物語の主人公になる可能性は常に拓かれているのだ。

考古学ミステリーは情報工学で解けるか

寺村 裕史

文化資源研究センター



証拠を集め推理する
「考古学ミステリー」と聞けば、どういった「謎」を思い浮かべるだろうか。エジプトのピラミッドは、なぜ・どのように造られたのか。あるいは日本であれば、女王卑弥呼が治めた邪馬台国の場所はどこなのか？ といった事柄を想像されるかもしれない。

筆者に与えられたテーマは、そのような考古学ミステリーを「情報工学で解けるか」であるが、結論から言えば情報工学・デジタル技術を使ったからといって、魅惑的な歴史のミステリー（謎）が一挙に解き明かされるわけではない。そう言い切ってしまうと、読者の方をがっかりさせてしまうかもしれないが、考古学は地道な発掘調査などによ

て遺構や遺物といった過去の人間が遺した「証拠」をたくさん集め、そこから「推理」して過去の歴史を復元する学問である。そして、さまざまな説が提起され「謎解き」の議論がなされるというところが、考古学ミステリーの醍醐味かもしれない。だが、情報工学で一挙に「解決」とはいかないまでも、近年の情報技術の発展に伴い、「証拠」を集めたり「推理」する際に、デジタル技術が考古学研究にも大きな役割を果たすようになってきている。そのほんの一例を以下で紹介したい。

コンピュータグラフィックス

コンピュータグラフィックス（以下CG）は、土に埋まった、あるいは年月の経過で失われてしまった過去の「情報」を、現代に視覚的に描き出す。古墳時代の前方後円墳をデジタルで測量し、CG



前方後円墳（岡山市・造山古墳）の現状での風景写真[上]と、3Dで復元したCG画像（写真とおおよそ同じ位置・方向から）[下]

で古墳を立体的に表現する。実際の古墳は樹木が生い茂り墳丘を観察することが難しくても、地表面を直接計測したデータから墳丘のCG復元すれば、樹木や葉などの影響を受けずに墳丘の観察が可能となり、古墳の構造や土砂が流れた痕跡などを視覚的に把握できるようになる。

三次元計測・パターン認識

三次元スキャナを用いて、遺跡全体や、出土遺物の遺構を計測する手法が研究に応用されるようになってきている。下の写真はインダス文明期の遺跡から出土した、インダス印章でスタンプされたペンダントである。これらは、図柄が三つとも同じ構図、デザインであるように思われ、同じひとつの印章を使ってスタンプされた物と考えられる（見た目は）。そういうときにこそ、本当に同じ印章が使われたのか、検証するためにデジタル技術が応用できる。パターン認識技術を応用した犯罪捜



発掘調査で出土した考古遺物のレーザースキャナを用いた3次元計測の様子
【実際の土器の形がコンピュータに読み取られていく様子がわかる】



インダス文明期の都市遺跡から出土したペンダントの写真(上)と3次元モデル(下)
【3次元モデルを作成することで、図柄の凹凸(おとつ)を「数値」として比較検討できるようになった】

査で使われるような指紋の照合と同じ原理で、デジタルデータから図柄が一致するかどうかの「確からしさ」を判定する。肉眼で見ると、「同じ模様に見えるから同じ印章を使った」では、学問的には研究者の単なる推測にしか過ぎない。そこにデジタル技術を用いることで、より客観的・科学的な「証拠」としての説得力をもたせることができる。

一足飛びに、壮大な歴史ミステリーが解けるわけではないが、基礎資料となる情報工学を応用したデータが少しずつ収集され、分析事例も蓄積されてきている。そうした地道な研究の積み重ねの先に、考古学ミステリーを解明する大きなヒントが見えてくるのではないだろうか。



森の奥深くに暮らす利用者宅まで、ケアワーカーたちは一日に何度も車を走らせる

ネパール地震の被災地を訪ねて

南 真木人 民博 研究戦略センター



仮設住居に泊まりました

写真：カトマンズで JICA 専門家と情報交換。(右から2 番目が筆者)

フィールドに出たならば、どこで寝るのかということも、現地のやりかたに順応し「日常」のものとなっていく。しかし、それが被災地の仮の住まいであればどうであろうか。

山地の村へ

ネパール地震が発生して約二カ月後の六月と七月、遅きに失した感はあるが、被災状況と現状を見るためにネパールに行ってきた。行くにはできるだけ支援の手が届きにくい山地の村を、特に社会的弱者の置かれた状況を見たかった。そこで、もと不可触カースト(ダリット)の被災者を救援してきたフェミニスト・ダリット・オーガニゼーション(FEDO)というNGOをまずは訪ねた。FEDO職員はころよく救援先の村々の情報とコンタクトすべき人物の連絡先を教えてくれ、そのひとつシンドウパルチョーク郡バタセ行政村のピカダーダに行くことができた。

ピカダーダは六三戸の鍛冶師カーストと五戸の仕立師カーストからなる村だ。ジープで行けるジャルビレから南西に歩いて登ること一時間半、尾根の上に村はあった。泊まるころも食事も手配できるから来てくたさいと電話でいわれ、用意したテントも三〇キロの米も持たずに、というより持たずに、小雨の中を歩いた。ジャルビレまでのパレフィ川沿いの村々の倒壊状態から予想はしていたが、目の前に広がる瓦礫の山にことばを失くした。全六八戸が跡形もなく全壊しており、瓦礫の整理も未だ手つかずのところが多いのだ。壁材であった石が掘り起こされている窪みは、二人の犠牲者を救出しようとした跡だという。

波形鋼板の住まいで

仮設住居は尾根筋から少し下ったトウモロコシ畑に並んでいた。当初はいわゆるブルーシートで小屋掛けしていたが、雨風に耐えず、今はシートも利用しつつ壁と屋根を波形鋼板で覆っている。波形鋼板は一枚五キロあ



泊めてもらった仮設住居。バクタブルに住む二男が携帯電話でアレンジしてくれた

★
ネパール・シンドウパルチョーク郡



狭い畑に仮設住居が並ぶ。キリスト教徒もいて仮設教会も再建されていた



ピカダーダの尾根筋。2階建ての住居が並んでいたという



丸めた波形鋼材をひとり2枚運ぶ。雨季に入り仮設住居の補修が急ピッチ

る重厚なもので、ペラペラのトタン板とは似て非なるものだ。村には政府から各戸一万五〇〇〇ルピー(約一万八〇〇〇円)の給付金が既に支給されており、それで一枚約二〇〇〇円の波形鋼板を買いそろえた人が多い。給付金が二カ月以内に支給されたことは幸いだった。だが、支給が遅れているダディン郡のある地域では、国際NGOが波形鋼板二枚を無償で配布し、それが不要な家には現金一万ルピーを支給していた。そうすると、後日支給される給付金は波形鋼板に費やさなくて済むという不公平が生じるが、他の郡のことなど誰も知る由がない。

食糧や毛布などの救援物資はFEDO以外からは届いていない。そうだ。特別の配慮が求められるダリットの村があることを理由に、近隣村の非ダリットの人びとが救援物資を要求し入手しているらしいが、それがこのダリットの人たちにまで届くことはないという。カーストや民族を超えた平等な助け合いが見られたのは震災後一週間だけだった、という語りは誇張とはいきれない面がある。仮設住居では土間に持参のマットをひき寝袋に入って寝た。疲れも手伝って熟睡できたが、これが毎日続く生活とはどのようなものだろう。お礼を包んだとはいえ、こうした状況下、わたしたちを泊めてくれた村人の好意に応えることは個人ではなかなか難しい。救われたのは、後日、同行したネパール人の友人が事務長をつとめる医療NGOが、ピカダーダの学校再建のため支援に乗り出してくれることになったことだ。

これまでわたしは仮店舗や仮小屋など波形鋼板を用いた建物に泊まったことがあったし、「ことさら悲惨な印象をもっていない。それは今も変わらないのだが、今回の仮設住居での一夜は、自らの無力さと災害研究の難しさを痛感させられるものとなった。

特別展

「韓日食博」 わかちあい、おもてなしのかたち」

韓国交正常化50周年を記念して、韓国国立民俗博物館と共同で開催します。

研究公演

「時を越える南インドの踊り」

寺院舞踊のスタイルを伝える舞踊家ナルタキ・ナタラジの演技を通して、インド舞踊文化の多様性を紹介します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「春のみんなくフォーラム2016」

新しくなった東南アジア展示やイベントを通じて、ゆつたりとした東南アジアの日常を紹介いたします。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

「息づく飯面」

パリ島から、第一線で活躍中の舞踊家2名を迎え、ガムランを伴奏に飯面舞踊劇トベンを上演します。

会場 本館講堂(定員450名)

日時 12月6日(日) 14時〜16時

会場 本館講堂(定員450名)

「飯面を生かす踊り」

パリの舞踊家の指導で、それぞれの役柄に特有なからだの動きを体験し、舞踊家がいかに飯面に命を吹き込んでいくのかを学びます。

日時 12月5日(土) 11時〜13時

会場 本館講堂(定員40名)

「カムイノミ(神への祈り)」

本館に所蔵されているアイヌの標本資料への感謝と安全を願ひ、北海道アイヌ協会の協力をえて、カムイノミをおこないます。

日時 11月12日(木) 10時30分〜11時50分

会場 本館玄関前広場

「アイヌ工芸inみんなく」

アイヌ民族が培ってきたものの作りの技術や知恵、伝統から創造された数々の作品にふれてみませんか。アイヌ協会優秀工芸師による「刺しゅう」や「木彫」の実演が行われます。

日時 11月12日(木) 15時〜17時

会場 本館エントランスホール

「もの作りワークショップ」

日時 11月12日(木) 15時〜17時

会場 本館エントランスホール

「台湾文化光点計画」

日時 11月28日(土) 13時〜16時40分

会場 本館講堂

「台湾の客家文化産業」

日時 11月29日(日) 13時〜16時40分

会場 本館第4セミナー室

「北大阪ミュージアムメッセ」

日時 11月14日(土)、15日(日) 12時〜15時30分

会場 特別展示館休憩所(BF)

「公開講演会」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「育児の人類学、介護の民俗学」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「フィールドワークにおける再発見」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

会場 本館講堂

「台湾の客家文化産業」

日時 11月29日(日) 13時〜16時40分

会場 本館第4セミナー室

「北大阪ミュージアムメッセ」

日時 11月14日(土)、15日(日) 12時〜15時30分

会場 特別展示館休憩所(BF)

「公開講演会」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「育児の人類学、介護の民俗学」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「フィールドワークにおける再発見」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 12月6日(日) 14時〜16時

会場 本館講堂(定員450名)

「飯面を生かす踊り」

パリの舞踊家の指導で、それぞれの役柄に特有なからだの動きを体験し、舞踊家がいかに飯面に命を吹き込んでいくのかを学びます。

日時 12月5日(土) 11時〜13時

会場 本館講堂(定員40名)

「カムイノミ(神への祈り)」

本館に所蔵されているアイヌの標本資料への感謝と安全を願ひ、北海道アイヌ協会の協力をえて、カムイノミをおこないます。

日時 11月12日(木) 10時30分〜11時50分

会場 本館玄関前広場

「アイヌ工芸inみんなく」

アイヌ民族が培ってきたものの作りの技術や知恵、伝統から創造された数々の作品にふれてみませんか。アイヌ協会優秀工芸師による「刺しゅう」や「木彫」の実演が行われます。

日時 11月12日(木) 15時〜17時

会場 本館エントランスホール

「もの作りワークショップ」

日時 11月12日(木) 15時〜17時

会場 本館エントランスホール

「台湾文化光点計画」

日時 11月28日(土) 13時〜16時40分

会場 本館講堂

「台湾の客家文化産業」

日時 11月29日(日) 13時〜16時40分

会場 本館第4セミナー室

「北大阪ミュージアムメッセ」

日時 11月14日(土)、15日(日) 12時〜15時30分

会場 特別展示館休憩所(BF)

「公開講演会」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「育児の人類学、介護の民俗学」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「フィールドワークにおける再発見」

日時 11月13日(金) 18時30分〜20時40分

会場 日経ホール(東京、定員600名)

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「地球探検紀行」

日時 13時〜14時30分

会場 あべのハルカス近鉄本店「スペース9」

「世界の見聞録」

日時 11月25日(水)

会場 本館講堂

「カレッジシアター」

味の根っこ



北海道アイヌの魚の汁物

チエプオハウ

齋藤 玲子 民博 民族文化研究部



調理中のスケトウダラのおハウ (2011年)



副菜として作ったカボチャラタンケブ (2014年)



みんなのカムイノミの後、料理について説明する
苫小牧アイヌ協会の大竹房子さん (2014年)

たちが中心となり、職員が手伝いながら準備しておいたものだ。こうした食事に欠かせないのがオハウ(汁物)である。

オハウは貝だくさんの汁で、味付けは伝統的には塩(と油)である。みんなくでは、二〇一一年秋の特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし」の開催期間中、レストランで限定メニューとして提供した。三平汁をご存知の方は、似たようなものと思っただいてよい。

「本当の鮭」を探して

二〇一四年一月二六日の晩、わたしは霧雨の降るなかを自転車で茨木駅近くの食料品店などを回っていた。翌日のカムイノミの料理「オハウ」に使う鮭が、手違いで足りないことがわかったので、探していたのだ。「半身くらい欲しい」と言われたが、最初に行ったスーパーには塩をした紅鮭の切り身しかなく、次の店は贈答用の塩鮭の半身があつたが、これも紅。三軒目の鮮魚店には鮭がなく、四軒目でようやく白鮭の切り身があつたが、二パックしかない。五軒目の店に二、三切れ入りの白鮭を見つけ、売り場に出ていたほぼ全部、八パックほどを買ひ込み、ほっとして帰宅した。時期も遅かったのだろうが、関西では紅鮭が好まれるのだと、北海道との違いを改めて知らされた。

翌日この話をしたら、「鮭っていろいろな種類があるんですか?」と若い職員に聞かれた。思い返してみれば、関東の海無し県に育った筆者も、大学進学で北海道に住むようになるまでは「塩鮭(切り身)」と「新巻(一尾まるごと)」くらいしか認識していなかったかもしれない。現在、日本沿岸で捕獲しているおもな鮭はシロザケ、カラフトマスおよびサクラマスで、ベニザケとマスノスケは多くが輸入、ギンザケ、ニジマス、タイセイヨウサケも養殖ものの輸入が大部分である。日本でもっとも多く獲れるふつうの鮭がシロザケだが、捕獲時期や成熟度によってもよび名が変わる。ちなみにアイヌ語で

もっとも日常的な料理

オハウは儀式のときの特別な食べ物というわけではない。伝統的な日常の食事の基本はオハウとサヨ(粥)で、ラタシケブなどとよばれる(野菜主体の)煮物が加わることもある。オハウの具材はさまざまで、魚(チエプ)を入れたものはチエプオハウ、シカ肉(ユク)を入れたものはユクオハウ、野菜中心のものはキナオハウ(キナは食用・薬用・物を作る素材など有用な「草」を指す)などという。農耕は古くからおこなわれており、江戸時代の記録にも豆や大根・かぶなどの野菜を食していたことが書かれ、明治時代にはジャガイモやカボチャなども主要な食材となった。大根やジャガイモは、オハウの定番材料である。さらに香りがよく栄養価の高いギョウジャニンニクや、オハウキナともよばれるニリンソウなどがあれば、文句なし。ちなみに、アイヌ語ではオハウには「飲む」「吸う」という動詞は使わず、「エ(食べる)」を使う。

カムイノミの際には、団子や酒が作られ、日常の食事に加えて飯やさまざまなラタシケブと、菓子や果物なども添えられる。みんなのカムイノミの日にも、北海道産の魚や野菜を使った料理が用意される。

現代のアイヌの食事は、もちろん日本の一般家庭と同じように和洋中さまざまなものがある。しかし、季節ごとの山菜や魚やシカ肉などを、自らとったり、知人にわけてもらったりして保存しておく人も多く、ことあるごとに伝統的な



アイヌ民族博物館(白老町)で開催された国立のアイヌ文化博物館(仮)の会議時の昼食。右の碗がサケのおハウ

は、シベ(本当の食べ物)、カムイチエプ(神の魚)とよばれ、もっとも大切な魚である。オハウに赤い鮭が入っているのは想像しがたい。

みんなくとアイヌ伝統料理

毎秋、みんなくではカムイノミ(アイヌ語で「カムイへの祈り」)をおこなっている。「アイヌの文化」展示場が開かれた一九七九年、復元した伝統的な家屋「チセ」の完成を祝うチセノミに始まり、以来、標本資料の安全な保管とアイヌ文化の継承を願う目的で、ずっと続いてきた。チセの復元に携わった萱野茂氏が長らく祭司を務めたが、逝去後の二〇〇七年からは、(公社)北海道アイヌ協会と協定を結び、各地の団体を招聘して実施するかたちで継続している。儀式のあとは、関係者と館の職員らで伝統的な料理を試食する。前日にアイヌ協会の方

オハウを作ることもしばしばである。寒い季節、滋味豊かな汁物は、芯から体を温めてくれる。

※今年のカムイノミは一月二日(木)で儀式と古式舞踊は一般に公開。「アイヌの文化」展示場は、来年三月一七日(木)のリニューアルオープンに向け、二月一八日(水)から閉鎖。

チエプオハウ(約4人分)

サケやタラなどの魚	300 ~ 400g (身・あら。塩をしたものでもよい)
ダイコン	約8cm
ニンジン	3分の1本 (またはゴボウ、ジャガイモなどの根菜)
シメジなどのキノコ	約50g
ギョウジャニンニクなどの青物 (小松菜や白菜、フキノトウでもよい。小松菜なら1~2株)	
長ネギ	約10cm
昆布	10cm角位
塩、油(サラダ油などでも可)	適量

- ① 根菜は皮をむき、食べやすい大きさに切る。ゴボウやジャガイモを入れる場合は、水にさらしておく。シメジなども一口大にする。葉物は3cmくらいに切る。
- ② 鍋に昆布を敷いて水と根菜とキノコを入れて火にかける。
- ③ 野菜が柔らかくなってきたら、魚を入れ、灰汁をひきながら、火がとおるまで煮る(葉物を入れる場合は、根菜と魚にほぼ火がとおった後で入れる)。
- ④ 塩と油で味を調え、仕上げにネギを散らす。

- * 昆布は火であぶってから鍋に入れたり、仕上げにあぶったりあげたものを粉々にして振りかけるなど、さまざま。
- * 灰汁に薬効があるとの考えから、すくわずに、最後に入れる葉物に吸わせてしまう、という人もいます。

BORDERLESS HERITAGE

文化遺産

おもてうら

BORDERLESS HERITAGE

和食がユネスコの無形文化遺産に 登録されて見えてきたこと

くまくら いさお
熊倉 功夫

静岡文化芸術大学学長／民博名誉教授



和食が無形文化遺産条約の代表一覧に記載されたことを記した通知書で、ユネスコのボコバ事務局長のサインが入っている

日本の重要無形文化財・重要無形民俗文化財の考えかたは、ユネスコの無形文化遺産の考えかたと必ずしも同じではない。和食が無形文化遺産に登録されたことで、文化財に対する考えかたも再考を迫られている。

驚異的な速さ

和食がユネスコの無形文化遺産の代表一覧に登録されるまでの経緯は、今になって振り返ってみると、奇跡的なスピード感をもって推進されたといえよう。正式に検討会が設けられたのが二〇一一年七月。それから四回の検討会で枠組みが決定され、提案書がユネスコ本部に送られたのが二〇一二年三月であった。その間に修正が加えられ、文化庁の無形文化遺産特

別委員会をとって、同年九月に、二〇一三年最優先審査案件としてユネスコに送られたことが文化庁から発表された。その後も提案書の修正は続き、付録して提出する映像資料（約一〇分間のDVD）が完成したのは、ほとんど二〇一二年の年末であったと記憶している。翌二〇一三年六月ごろには専門委員会審査が進んでいたはずだが、その間の消息はまったく知らされず、同年一〇月に登録するにふさわしいという意見が委員会から本部に送られたことが公表され、提案書をとりまとめてきた一員として、正直、ホッとしたところだった。その約一カ月後の二〇一三年二月四日に、アゼルバイジャンで開催された政府間委員会で登録が正式決定に至った。つまり、二〇一一年七月のスタートから二〇一三年一月の決定の間、二年五カ月で登録に至ったのは驚異的な速さであったとい

和食への危機感

和食の登録に障害がなかったわけではない。第一に、従来の

無形文化遺産登録の方式に反するいささか異例な手続きがとられた。それまでに日本が申請して登録されている案件は、いずれも国内において重要無形文化財、あるいは重要無形民俗文化財に登録されたもので、そのなかから候補があげられ、諸案件が勘案されて順番に申請されてきたものである。ところが和食は、そうした無形文化財に指定されてもいないし、当然、技術保存の個人も団体も指定されて

いない。それどころか、和食の申請では、国民全体がその前例のないことであつた。またすでに登録の候補にあがっている案件より先とされたこともめずらしい。つまり和食申請の緊急性が評価されたわけで、その要因は二〇一一年三月一日の東日本大震災によって、食に対する風評被害が世界的に生じたことに対する危機感が働いたと理解している。

であろう。

法整備の必要性

結果として、新しい課題が文化行政のなかに生まれた。和食文化がユネスコの無形文化遺産に登録された以上、他の無形文化財同様に、国内法でもこれを保護の対象に加えるべく、法の整備をしなければならない、という課題である。つまり文化財保護法の対象の領域に食文化を加える必要が出てきた。



記者発表（2013年12月）。登録を受けて、決定の2日後に農林水産省で開かれた記者会見の様相



検討会（2011年7月）

こうした特別な配慮のなかで和食文化の登録が進められた背景には国をあげての（特に農林水産省のリーダーシップ）応援と国民的支持があったからに違いない。そのなかで共有されたのは、このままでは和食文化が崩壊するという危機感である。ユネスコへの登録を契機に、国内でその保護継承の運動をおこななければならない、という意識である。そのことが、異例づくめの推進を可能にしたの

でもそも文化財保護法に問題があつて、食文化のような生活文化を認めていないだけではなく、西欧の文化概念にない日本独自の文化が排除されているのが大きな問題であろう。たとえば歌舞伎や能は日本独自の芸能であるが、演劇という日欧に共通するジャンルがあるので文化財の対象となっている。しかし、茶の湯やいけばなのような生活文化は、西欧に該当するジャンルがないので、対象とはなつて

いないのである。茶の湯やいけばなは日本文化の代表のように外交面で扱われながら、伝統文化として文化財保護法の対象にならないことを異常ではないだろうか。

ユネスコの無形文化遺産に「和食」日本人の伝統的な食文化」が登録されたのを機に、日本の文化財保護法を見直し、現代にふさわしい形に整理されてゆくことを大いに期待したい。

米国先住民ミュージシャン エド・カボーティ

少数派が多数派に対抗する手段として、アートが用いられることがある。米国、フラッグスタッフ市の先住民アーティストの作品に込められた願いは、主流社会を動かすまでになっている。



ホビ展で演奏するエド・カボーティさん

ワ語の歌詞をのせた親しみのある温かみのある曲風を奏でることが多い。

聖地保護のための楽曲

アーティスト・イン・レジデンシーとして数年間生活してきたフラッグスタッフでの経験をもとめた最新作となる三枚目のCD『Shadowed by the Mountain』には、『Ping Tsawae (雲・山)』と題された曲が収録されている。この曲にはフラッグスタッフ市が抱える環境問題に対する彼の主張が込められている。

フラッグスタッフはグラントキャンニオンにも近い観光産業の町であり、冬場はスキー客で賑わう。環境問題とはスノーポールという名前のスキー場に確実に集客するための人工降雪計画のことだ。その人工雪とは上水ではなく下水を再生水処理したものが原料となる。スノーポールはサンフランシスコ連峰の西麓にあるのだが、この連峰は先住民ホビが信仰する精霊カチーナが住む聖地とされている。聖地に再生水処理するとはいえず下水をばらまくというのは、先住民に対する侮辱に他ならない、というのが彼をはじめとする先住民側の主張なのである。エドさんは、調和を欠いた世界 (Koyanishqatsi) というホビ語を用いてこの事業を

ホビ展の目玉

七月四日は米国独立記念日。数ある祝日のなかでも特に祝福のムードが高まり、市街地のいたるところで花火が上がる。アリゾナ州フラッグスタッフにある北アリゾナ博物館は毎年この週末にホビ展 (Hopi Festival) を開催する。二〇一五年に八五年目を迎えたこのイベントでは、地元先住民であるホビのアーティストを招聘し、先住民自身による文化発信の機会を提供している。この週末にはホビの親族がたくさん集うだけでなく、フラッグスタッフ市の主流社会を構成するアングロサクソン系市民と先住民との交流が深まる。

近年のホビ展では宝飾品や木彫りや土器や籠細工やテキスタイルといったアートだけでなく、伝統食や踊りや音楽といった無形文化を紹介するプログラムも登場するようになった。屋外テントに設置されたスピーカーからは先住民ミュージシャンの歌声が響き、数百名規模の観客を魅了する。

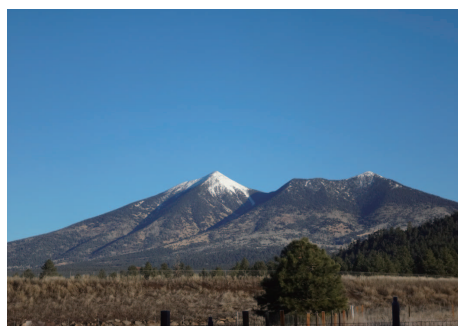
そのなかでもひとときわ人気のあるのがエド・カボーティさんである。彼はホビとカーポ・オウインゲ (サンタ・クララ・プエブロ)



CD『Shadowed by the Mountain』の裏表紙に使用された「聖地を覆う黄色い雪」

鋭く批判する。本件については事業を推進しようとしているフラッグスタッフ市を相手どって、ホビ政府が訴訟するにいたっている。

楽曲『Ping Tsawae』はエドさんの絵画作品「聖地を覆う黄色い雪 (原題 Yellow Snow on the Mountain)」に対応する。下水処理した黄色い雪が降り積もった連峰のスキー場の斜面をホビの道化が滑走し、地面から水竜が激怒してあらわれている。この曲と絵画作品は反スノーポールのシンボルとしてしばしばメディアに登場してきた。数年間続く訴訟は決着しないままにある。絵画と歌に込められたエドさんをはじめとする先住民社会からの聖地保護の願いは、アングロサクソン系主流社会による意思決定をギリギリのところまで思いとどまらせているのである。



標高3,851メートルのサンフランシスコ連峰 (ホビ語でスヴァトゥキヤオヴィ) はホビの聖地である



エドさんの初期の銀細工 (ペンダント) を、民博は2010年に収集した (H0268571)

カントが晩年書いた『人間学』の文脈において、「共生」というキーワードを考えることは意味深いことだ。

共生ということは今後、人類学を未来に向けて解き放とうとする際、確かにひとつの鍵となる概念なのだが、その力は今もポテンシャルの状態にとどまっている。その来し方を踏まえ、行く末に備えよう。

共生は、戦前から発生してきた日本語で、バブル経済崩壊後にこのことばを冠した多数の書籍が出版された。人類学では、狩猟採集民エフェと農耕民レッセの自然とのかわりが相互の共生を実現させているとした寺嶋秀明の『共生の森』。理想的社会へと至り得るオルタナティブな生の在り方を集めた竹沢尚一郎の『共生の技法』。グローバルな世界認識を身近な暮らしの変革に結び付けた渡部重行の『共生の文化人類学』などが著名であるが、人間と家畜との共生や、人間と機械との共生もある。ただこのことばが日本で育まれてきたればこそ、共生に相当する英語さえそれぞれの論者が手さぐりしている。

ひとつの対応語は *conviviality* である。もともと宴を意味するこの語彙は、人類学にも親和性が高かったイリイチが用い、また法哲学者の井上達夫が用いたため、共生といえは *conviviality* だと思ひ込んでいる研究者は多い。しかしそれは必ずしも正確ではない。

例えばその井上達夫に生物学的な意味での「共棲」とされてしまったことばが *symbiosis* である。確かにこのことばは細胞共生説が唱えられてから著名になった。けれどもそれ以前に精神的

人類の課題

人間学の
キーワード

共生

Conviviality, Symbiosis, Living-together

飯嶋 秀治 九州大学准教授

共生として、フロムやユングも使っていた。

他にも *living-together* もある。これは生態学で用いられた一方結婚などの制度に裏付けられない同棲の可能性をあらわす文脈などで出てきた。R・バルトの晩年の関心がこの、ともに生きることであり、栗原彬もこれを対応語に選んでいる。co-existence もある。

こうした混乱が生じているのは、共生ということばが日本の土壌から発育し、のちにその対応語を、それぞれの論者が海外の著作に求めたことによるのであろう。もちろん、問題は混乱そのものではなく、この混乱をいかに学問的に生産的に解き放つかである。共生をわたしたちが語るとき、その背後には、この語を放ちたくなる「共苦」が暗黙裡に横たわっていたということであろう。世界の現実はその目前にある姿が唯一のものではなく、もつと別の在り方があり得るはずであり、あらねばならないと思わせたその課題こそが、わたしたちが人間学のなかでの共生を語り合う足場であろう。

冒頭のカントが青年期、論文で負かされたのがユダヤ人哲学者メンデルスゾーンであった。彼はプロイセン王国の言語と法制下で、ユダヤ人の生活世界を作る言語や法政策を諮問されていた。これがのちにドイツにおけるユダヤの共生問題となる。こうして想いを馳せるとき、わたしたちが今日生じているヘイトスピーチや外国人を国家に摂り込みながら社会的に排除する包摂的排除の在り方が、人類が何度も直面してきた課題であり、ならばこそ人類学がこうした課題を克服するため、世界のあちこちから知恵を集め得る人間学となり得ることを知るであろう。

編集後記

会議や打ち合わせが一日中あって疲れて家に帰ると、脳のギアチェンジをしたくなる。そういうときは、インターネット配信の海外ドラマをよく見る。犯罪ものは結構好きだ。シリーズにはまってしまうとついつい、数エピソード続けて見てしまうこともある。ミステリー小説にお決まりの「約束事」があるように、ドラマの脚本や演出もパターンがある程度見えてくる。人物の登場の仕方、せりふの内容やタイミングなどの劇作術を心得ると、「あ、こいつが犯人!」とわかってくる。「意外な犯人像」も「推理」に織り込み済みで見ると、結構当たるのだ。40分ほどで正解がわかり、スッキリ感が得られる、というところが探偵ドラマの魅力なのだろう。

高橋・寺村両氏が本特集に書いているように、我々がおこなう研究も推理の積み重ねで、探偵の事件捜査に通じる。しかし、現実にはドラマとは違って小一時間で答えが出るものではない。しかも「正解」がひとつとも限らない。5年、10年、20年とかけて、こつこつ、ちまちまと証拠を蓄積し、ようやく全体像がおぼろげながら見えてくる。気が遠くなる作業だけに、即時解決型の娯楽について逃避したくなるのである。(山中由里子)

●表紙：家屋入口用 鍵 地域：メキシコ H0131819

●特集に掲載されている鍵資料

p2 表紙と同じ

p4 大櫃用 鍵 地域：メキシコ H0131829

p5 衣装箱用 鍵 地域：モロッコ H0126962

p7 鍵 地域：日本、北海道 H0033214

p8 衣装箱用 鍵 地域：モロッコ H0126961

次号の予告

特集

市に集う

月刊みんなぱく 2015年11月号

第39巻第11号通巻第458号 2015年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信

編集委員 山中由里子(編集長) 河合洋尚 菅瀬晶子

丹羽典生 丸川雄三 南真木人 吉岡乾

デザイン 宮谷一 長岡綾子

制作・協力 一般財団法人 千里文化財団

印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
 お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんなぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんなのほくぶつかん みんなばく

MINPAKU

展示場が生まれ変わるとき

中央・北アジア展示、アイヌの文化展示のリニューアル工事

閉鎖期間：11月18日(水)～2016年3月16日(水)

中央・北アジア展示とアイヌの文化展示がリニューアル工事のため閉鎖されます。両展示について、担当の藤本透子先生(中央・北アジア展示)と齋藤玲子先生(アイヌの文化展示)にお話を伺いました。

中央アジア、モンゴル、シベリア地域から成る中央・北アジア展示。手薄だった中央アジアに力を入れ、暮らしや職人の技、イスラームと



新しいモンゴルのゲルは、パラボラアンテナやオートバイなど、現代の遊牧生活に欠かせないものととも展示されます。写真は現展示のもの

人生儀礼にまつわる資料が展示されるそうです。さらにモンゴルのゲルは現代のものに替わるほか、シベリアの大きな樹皮舟やそりが新たに加わるなど、みどころがたくさんあります。また、動物とともにある暮らしや、この地域が経験した社会主義時代のコーナーも新設されます。

アイヌの文化展示がオープンした当初、アイヌの民族文化を独立して紹介すること自体が画期的だったといいます。新展示では、伝統を受け継ぐとともに、新たな文化を創造する現代に生きるアイヌの人びとについての展示が充実。権利回復運動や文化の伝承、アイヌの現代作家の作品も多数展示されるとのことです。

旧展示の資料には、再展示されるものも、これで見納めとなるものもあります。すでに展示をご覧になっている方はいま一度、まだの方は、リニューアル前後で比較ができる最後のチャンスです。また、11月12日(木)にはカムイノミもひらかれます。みんなばくへお急ぎください。



色鮮やかなウズベキスタンの陶器とカザフスタンの弦楽器ドムブラ。リニューアル後に展示されます



アイヌの文化展示のイントロダクションでは、アイヌの現代作家の木彫りが3点展示されます。「今までのアイヌの工芸のイメージをくつがえすような作品です」と齋藤先生。写真はそのひとつ、貝澤徹さんの「アイデンティティ3」です



1920年代の北海道・二風谷での実際の生活記録にもとづいて作られた、精巧な「アイヌの母屋とその周辺」模型(1/10)は撤去され、この場所にクマ送りの祭壇が展示されるそうです

みんなばくをもっと楽しみたい人のために——— 会員制度のご案内

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。電話06-6877-8893(平日9:00～17:00)

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなばく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなばくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんなばくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館 キャンパスメンバーズ

みんなばくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。